



カリエロ11



サレジオ会宣教ニュース

150 感謝再発 謝考進

194 2025年 2月

サレジオ会宣教部門による
サレジオ会共同体・サレジオ・ミッションの友人のための通信

再考を



神の祝福が ありますように！

この希望の年は、米国とカナダの召命司牧の仕事がいかにかに祝福であるか、私にふりかえる機会を与えてくれました。情熱をもって信仰を生き、惜しみない奉仕のうちに人生をささげようとする若者を、私は管区全体で目の当たりにしています。意識的に共同体を生き、祈りの生活を深め、本物のキリスト者、宣教する弟子になりたいという強い望みを、若者たちは抱いています。

このことは私を希望で満たし、引き続き若者に寄り添い、召命を識別する彼らと共に歩むよう励まされます。これはドン・ボスコが生きた、そしてサレジオ家族として私たち皆に生きてほしいと願っている人生の冒険なのだと思えます。巡礼者として若者と共に歩むのは素晴らしいことです！

● 北米東管区
召命司牧担当者
スティーヴ・デマイオ神父、
SDB

私たちは収穫の主ではなく、 主のぶどう畑の貧しい労働者



私の宣教顧問としての任期の終わりに来ました。一步引いて、遠く未来に目を向ける良い機会です。サレジオ会の宣教の働きは私たちの努力を超えるものであるだけでなく、私たちの目の届く範囲をも超えます。私たちは奉仕の任期中、**ドン・ボスコのミッションの、ほんの一部**を果たすにすぎません。

どのような取り組みも完成していません。
どのような活気づけのための訪問も、完全に活力を与えるわけではありません。
どのような宣教派遣も、宣教地のすべてのニーズに応えるものではありません。
どのようなオリエンテーションも、さまざまな挑戦に完全に立ち向かえるよう宣教師に備えさせることはできません。

どのような有機的管区計画POIもSEPPも、修道会の使命を完全に実現させるものではありません。
いつの日か成長するかもしれない種を、私たちは植えます。
すでに植えられた種に、私たちは水をやり、将来、豊かに実ることを希望しつつ。
私たちは植物を育てます、それは私たちの期待をはるかに超える実りをもたらすかもしれません。
さらなる発展を必要とする事業の土台を、私たちは据えます。
私たちの仕事は不完全かもしれませんが、それは始まり、道のりをたどる一歩です。

自分たちがすべてを果たすことはできないと気づくとき、私たちは**解放感を味わいます**。それは、残りのことを神にさせていただく機会です。

実に、何かが終わる時、それは、自分たちのすべての努力の最終的な結果を決して見ることはないことを謙虚に受けとめる好機なのです。

それは、収穫の主ではなく、主のぶどう畑の貧しい労働者であること、**メシアではなく、仕えるリーダー**であることです。

宣教部門のチーム・メンバーに、私の心からの感謝を表したいと思えます：**パヴェウ・ゼニシエク神父、エリク・マイルラ神父、レジナルド・コルデイロ神父、マルコ・フルガロ氏**。そして地域宣教促進コーディネーターの皆さん、管区宣教促進担当者の皆さん、サレジオ宣教ボランティア、宣教事務局、宣教資料館のための顧問チームの皆さんに感謝します。サレジオ会全体にわたり宣教の精神と取り組みを促進してきた、私たちのすばらしい協働の奉仕に感謝します。(会憲第138条)

主のみ前で私が心に抱く最も深い願いは、第29回総会後、自分の奉仕を終え、ふつうの会員として自分の管区に戻ることです。総会議員の皆さんにこの願いをかなえていただきたい

と思います。何よりも、自分への神のみ旨を受け入れ、心からそれを受けとめる力をいただけるよう祈ります。

皆さんへ、心から
「ありがとう！」



● 宣教顧問
アルフレッド・マラヴィジャ神父、
SDB

イエスのように - 若者たちの日々の旅を共に歩む



マルティン神父様、スロバキア、ポプラドの修練長として、ヨーロッパのかつては多くの召命に恵まれた地域でさえ、奉獻生活への召命の衰退をはっきりと見る事ができるでしょう。ヨーロッパにおけるSDB、FMAの召命の“危機”を、第一に問題として捉えていますか、それとも機会として捉えていますか？「宣教の勇気」はどのような役割を果たせるのでしょうか？

それは、衰退と言うとき何を意味するかにかかってきます。純粋に数字だけを見るなら、確かに衰退と言えるでしょう。しかし、聖書の語る神がそのようにお考えになるとは思えません。ダビデ王が軍の兵士を数えるのを神がよく思われなかったことを思い出してください。神の奉獻生活への呼びかけは数にかかわりなく、今もあります。むしろ肝心なことは、呼ばれた人たちがその召命を真実に生きることです。その真実な生き方がなければ、人々の“つまずきの石”となる、ふさわしくないあかしをする危険が生じます。

今の挑戦は、「狭い戸口」についてのイエスの言葉にも結びつくものです：修道召命は、いつの時代も容易な選択だったことはなく、今日、生涯をかけて呼ばれるものとして人生を受け入れることは、現代のメンタリティーから特にかけ離れているように思われます。他方、「季節性」の愛が真の愛として認められたことは決してありません - 真実な愛は絶えることがなく、その愛にこそ、まさに私たちは呼ばれています。したがって、数の減少は、価値観および個人的な犠牲にまつわる決断を行う力量の危機をおもに反映しています。私たちの生きている時代は、自己実現と自己肯定の飽くなき探求に特徴づけられます。そのような中で、何よりも、自分の殻から出て、“私”のほかに“あなた”、そして“私たち”があることを発見できることのうちに「宣教の勇気」はあります。

今月、私たちが祈りをささげる、サレジオ家族の召命アニメーター、管区召命司牧担当者の存在は、どのような意味で重要ですか？

私の見るところ、多くのコースセンターで、私たちの司牧は、若者のための取り組みにおもに力を注いでいるように思われます。しかし、私たちの会憲は、青少年司牧の頂点は召命指導にあると明確に示しています。「単なる取り組み」から召命の導きへ見方を変えなければ、私たちの事業はただの社会活動の場になってしまう危険があります。その中で、サレジオの召命アニメーターは、類まれな機会を与えられています：神との対話のうちに、生活のさまざまな条件の中で、人生を召命として理解するよう若者を導く機会を与えられているのです。

私にとって、サレジオの召命担当者は若者の中で生活し、全面的に若者と共にあることが必要だと思えます - 机の向こうに座っている役人ではなく、若者と具体的に生活を共にし、イエスのように、若者の日々の旅を文字通り共に歩む人です。



マルティン・カチマリ神父, SDB

私はスロバキアのコシチェに生まれました。スロバキアのポプラドの修練長として4年目になります。サレジオ会修道院の院長でもあります。これまで青少年司牧担当、修練準備期の担当、院長を務めてきました。生涯養成としてUPSで養成担当者のためのコースで学びました。また、ローマのアレッティ・センターで、サレジオ霊性と、東西霊性の接点についても学びました。



司祭一人あたりのカトリック信徒数 (教区および修道会の司祭)

| フ オ ー ラ ム | 国 | 司祭一人あたりの信徒数 | | www.catholic-hierarchy.org | 国 | 司祭一人あたりの信徒数 | |
|-----------------------|--------|-------------|------------|----------------------------|--------|-------------|------------|
| | | 信徒総数 | 信徒総数 | | | 信徒総数 | 信徒総数 |
| | キューバ | 21,170 | 6,330,000 | | 英国 | 847 | 4,787,000 |
| | アンゴラ | 16,378 | 10,302,000 | | インド | 852 | 17,005,000 |
| | ホンジュラス | 13,885 | 5,790,000 | | アイルランド | 887 | 4,161,000 |
| | ニカラグア | 12,439 | 5,212,000 | | イタリア | 1,150 | 57,665,000 |
| | スーダン | 11,041 | 4,019,000 | | ポーランド | 1,230 | 35,010,000 |
| | ブルンジ | 10,499 | 4,567,000 | | 米国 | 1,439 | 64,621,000 |
| | ペルー | 10,170 | 28,160,000 | | スペイン | 1,470 | 37,165,000 |

2月 サレジオ 宣教の 祈りの意向

再考 > 召命

サレジオ会の意向

宣教の勇気が新たにされるよう祈ります。

サレジオ家族が、召命を識別する若者に寄り添うことができますように。

教皇フランシスコの祈りの意向 > 司祭職、修道生活への召命のために



召命担当者のために